

IRONMAN ベトナム・アジア太平洋チャンピオンシップ

(ベトナム・ダナン市)

報 告

日 時：2019年5月12日（日）

スタート：6時00分

参加者数：1500人

距 離：ミドルディスタンス

結 果：総合40位 年代別45～49歳 4位

総合タイム4時間35分16秒

スイム1.9km（27分56秒）・バイク90km（2時間23分36秒）・ラン21km（1時間39分17秒）

IRONMAN（アイアンマン）シリーズといわれるものがあり、トライアスロン創成期からある歴史あるトライアスロン。IRONMANの完全公式距離はスイム3.8km、バイク180km、ラン42.195km。この半分の距離で競われるのがハーフアイアンマンといわれる。私は27年トライアスロンをしているが、このシリーズは出場することがなかった。今回、活動を共にする大田泰正氏（脳神経センター大田記念病院理事長ドクター）のお誘いを受け挑戦を決めた。海外レース、猛暑のベトナムでこの距離は覚悟がいる。初挑戦には良い条件だとも思った。

木曜入り（深夜着）で実質調整は2日。大田氏はベトナムへ仕事でよく来られるため、現地の食や交通を抜群に熟知されており助かりっぱなしだった。食事も日本食とは全く違う現地のものも堪能した。

当日は3時起きで朝6時のスタート。涼しいうちにスタートといったところだ。スイムはいつもより若干長い程度だが波が陰しかった。その分を楽しみに変えられるか、恐怖や嫌だと感じるかでレースの行く末が変わってくる。私は楽しかったと思えた。バイクも90kmを休みなしで一気に走るの若い時にロングに挑戦した以来で10年以上ぶりだった。道中に抜いていかれるのはバイクにフィットした大きな外国人選手たち。身体スピードの違いに驚かされる。それでも差が開きっぱなしでは面白くない。食らいつく姿勢は示しながらレースを進めた。90kmは長い後半残す距離になると、あとこれだけしか楽しめないのかと考えられるようになっていた。ランも同じだった。

ラン前半は暑くて突っ込んでいけない。だからリズムが乗らなく長くつらい。折り返すと「さ～最後だ！」ここまでくれば帰ることができる。そんな感じで後半を進んでいった。

ラスト2kmでシンガポールの若い選手が追い付いてきた。競技者魂としてここまで来て順位を落とすたくないと思え競り合いを覚悟しサイドバイサイドが続いた。たった2kmが最高にきつい。ラスト400mでスパートしたが失敗。2度目のスパートで私がコースをミスしたわずかな瞬間に入れ替わり差が開いた。「ここまでか・・・」と、過去の自分ならなっている。「あきらめない！」が心に沁みついているためゴールが見えた最後の直線で渾身のラストスパートだ。（写真）ゴールテープを目指す凄まじさ勢いは若い選手をあきらめさせたようだった。ゴール後互いに「グッドレース！ナイスラン！」と握手と背中を押した。（写真）

戦いだから順位はある。だがレース中の苦しさを前向きにしていくことで展開が良い方向に流れていく。人生もそのものだろう。

挑戦することで失うものは何もなかった。今後の生き方にも影響する大きなものを得た気がする。夢講演家としてこのことをこれからも伝えていきたい。早速来週は福山市内の中学生へ講演会がある。青春真っただ中、思春期の迷いある若人へ輝く未来を指示してやりたい・・・今素直にそう思っている。

今回の遠征が実現できたことは日ごろからのご声援と物心両面の支えもあったからです。感謝

感謝 トライアスリート福元哲郎



Top Age Group Men

IRONMAN 70.3 Male 45-49

PRELIMINARY: Times and places may change

< 0.88 km Run/Finish

1-10 out of 168 →

Place	Name	Time	Avg. Pace
1	Peter Weiss Bib 233	01:35:32 04:26:00	04:33 ---
2	Olaf Kasten Bib 1582	01:40:50 04:27:31	04:48 +01:30.69
3	Mark Jansen Bib 129	01:37:34 04:28:32	04:38 +02:31.62
4	T. Fukumoto Bib 1623	01:39:17 04:35:16	04:43 +09:15.87
5	Maksim Orlov Bib 128	01:34:49 04:40:00	04:31 +17:59.87



